

# 和歌山県田辺市上秋津方言における 身体感覚を表すオノマトペ

岸江信介

はじめに

1. 調査対象地： 和歌山県田辺市上秋津（「カミア」キズ）は、田辺市街地の北東に位置し、紀勢本線田辺駅からバスで約10分のところにある。右会津川が近くを流れる。農家が多く、主にみかんを栽培している。田辺市の人口は、71,796人（平成3年11月30日現在）、上秋津は2,078人、戸数705世帯（同上）である。
2. 調査年月日： 平成3年11月22日午後4時～午後5時  
平成3年11月23日午前11時～正午
3. 話者： 野田正子（昭和2年生まれ、調査時、63歳）  
笠松光枝（明治38年5月19日生まれ、調査時、86歳）
4. 調査者・調査場所：岸江信介、話者自宅（笠松光枝氏宅・野田正子氏宅）。
5. 調査方法・調査時の様子：両話者に対して、調査票にもとづく質問法で行った。

## I 全身の感覚

1-1. 快不快 「サ」ッバリ、サ「ー」ット

【説明】

心地よい感覚としては、例えば、風呂上がりの時の気分。

サ「ー」ットスルも「さっぱり」と同義。

○ 「オンセン」ハ「イ」ッテ サ「ッ」バリ 「シマス」ヨ。

（老）（温泉へ入ってさっぱりしますよ。）

1-2. 寒さ 「ガ」タガタ（強）、「ブル」ブル（中）、「カ」タカタ（稀）

「ソ」クソク

【説明】

「ガ」タガタ、「ブル」ブルを主によく用いる。

○ サ「ッ」バリ 「モヨオシマス」ノ「ー」。「ブル」ブル 「フ

ル」ワ。（老）

（寒気をもよおしますねえ。ふるふる震うよ。）

1-3. 熱さ 「ボ」カボカ（ボ「カ」ボカとも）、「カ」ッカ、ホー「ッ」ト

【説明】

ボカボカのアクセントは、頭高型よりも、2拍目を高く発音したもののほうが古い。

○「ヤ」ー。「ヌクモ」ッタ ヨ」ー。「ボ」カボカ 「スル。

(老) (ああ。温まったなあ。ほかほかする。)

〔項目に関するコメント〕

共通語形とはほぼ同じ形式が使用されている。ただ、1-1. のサ「ー」ット、1-3. ホー「ト」は、共に古老世代での使用に限定される。

II 皮膚の感覚 「ヒ」リヒリ(日焼け)、「ベ」タベタ、「ベ」タベタ、「ベ」ッタベッタ、「ベ」トベト、「ム」ズムズ、「ガ」サガサ、「ス」ベスベ(多)、「ツ」ルツル(少)、「ズ」キズキ(新)、「ツ」ンツン(古)、「ヒ」リヒリ(切り傷)「チ」クチク(切り傷)、「ボ」タボタ

【説明】

「ベ」タベタは、「ベ」タベタに対応する当地の方言形。前者は、老年層にその使用が限定される。同様に、激しい痛みの場合、共通語形の「ズ」キズキに対して、老年層では「ツ」ンツンを多用する。痛みの程度は、「ヒ」リヒリ(弱)・「チ」クチク(中)・「ツ」ンツン(強)となる。できものが膿んだ時、「ボ」タボタ。

○ ア「セ」 イッパ「イ」 カイテ 「ベ」タベタ 「スル  
ヨ」ー。(初老)

(汗をいっぱいかいてべたべたするよ。)

○ 「ツ」ンツン 「スル」 ワ「ヨ。(老)

(ずきずきするよ。)

○ 「ズ」キズキ 「イ」タイ ウッタ 「ト」コ。(初老)

(ずきずき痛いよ、打ったところが。)

〔項目に関するコメント〕

田辺では、「ツ」ンツン スルというのが特徴のあるオノマトペ、激しい痛み(部位を問わない)の折、よく使用するということである。

3-1. 頭 「ガ」ンガン、ガー「ン」ト、「ク」ラクラ、「フ」ラフラ、「ズ」キズキ(新)、「ツ」ンツン(古)

【説明】

「ガ」ンガンよりもガー「ン」トの方が一般的である。「ク」ラクラと「フ」ラフラの意味はほぼ共通語と同じとしてよい。

「ツ」ンツン Ⅱ「II皮膚の感覚」の〔項目に関するコメント〕参照。

○ 「アタ」マ ガー「ン」ト スル。(老)

(頭がががんとする。)

○ 「ネ」ツ アッタ」ラ 「ク」ラクラ 「スル。(初老)

(熱があれば、くらくらする。)

3-2. 顔面 「カㇿッカ、カㇿー、ホㇿーㇿット

【説明】

ホㇿーㇿットは、共通語の「ほっと」に対応する方言形。

- 「カオガ ホㇿテッテ 「カㇿㇿカ スル。(初老)

(顔が熱くなって、かっかする。)

- ホㇿーㇿット 「ヌクモッテㇿ クㇿル。(老)

(ほっと温まってくる。)

3-3. 目 「ショㇿボショボ、「ゴㇿロゴロ、クㇿリㇿクリ

【説明】

目にゴミが入った場合など、「ゴㇿロゴロ、クㇿリㇿクリという。クㇿリㇿクリは、痛さを伴う。

- メー クㇿリㇿクリ 「スㇿㇿワ。(老)

(目がごろごろして痛いよ。)

3-4. 耳 「ピーンㇿト(老)、「キㇿーキ(初老)、「ガㇿンガン、「ガㇿー  
ン、「ジㇿクジㇿク

【説明】

急激に強い音を感じた時、老年層では「ピーンㇿト、初老層では、「キㇿーキという。いずれも共通語の「きーん」に対応する形式である。

- 「ウルㇿサイ トㇿキ 「ミㇿミ 「ピーンㇿト 「スㇿ。(老)

(うるさい時、耳がびーんとする。)

3-5. 鼻 ムㇿズㇿムズ、「ムㇿジㇿムジㇿ、「グㇿジㇿ「グㇿジㇿ、

「グㇿスグス、「ツーンㇿト、「キューンㇿト

【説明】

ムㇿズㇿムズ、「ムㇿジㇿムジㇿともによく用いる。風邪の時、「グㇿジㇿ「グㇿジㇿよりも「グㇿスグスの方が、当地では一般的である。「キューンㇿトは、共通語「つーんと」に対応する形式。

- (わさびを入れすぎて、「キューンㇿト クㇿル。(中)

([鼻に]つーんとくる。)

3-6. 口 「ネㇿチャネㇿチャ、ネㇿバㇿネバ

(口全体) 【説明】

双方とも納豆を食べた時の状態をいう表現である。その他、梅干しや甘い物を食べた時のオノマトベは今回見当らなかった。

- 「ウメ スㇿイ 「ナㇿー。

(梅がすっぱいなあ。)

- 「クチノ」 ナカ 「ア」ワッタ。

(口の中が甘ったるい感じだ。)

等の表現が多用されることもあり、この部分でのオノマトベが発達しなかったものと考えられる。

- 「ヨ」ー 「ヒ」バル モ」ンヤカラ ネ「バ」ネバ スル。

(〔納豆が〕よく引っ張るものだから、ねばねばする。)

- (歯) 「ガ」タガタ (ガ「タ」ガタとも)、「ガ」チガチ、「ズ」キズキ、  
「ツ」ンツン

【説明】

「ガ」タガタは、共通語の「ガ」チガチに対応する形式。当地では前者の方がよく用いられる。

- 「ハ」ー 「ガ」タガタ 「ナ」リヤル 「デ。(老)

(歯ががちがち鳴っているよ。)

- 「ハ」ー 「ウ」ズイテ 「ズ」キズキ シテル。(老)

(歯が疼いてずきずきしている。)

- (舌) 「ヒ」リヒリ

【説明】

共通語と同じ形式、意味も共通語と同じ。

〔項目に関するコメント〕

身体の部位に関わらず、当地で、激痛を表すオノマトベの代表は、「ツ」ンツン(共通語「ずきずき」に対応)である。

- 3-7. 喉 「カ」ラカラ (カ「ラ」カラとも)、「イ」ガ」イガ、「ゼ」ーゼー、  
「ゼ」リゼリ、「ヒ」ーヒー

【説明】

「ゼ」ーゼーは共通語と同じ。これに対応するのが、「ゼ」リゼリである。「ヒ」ーヒーは喉の鳴る音(喘息などのために)で、共通語の「ひゅうひゅう」に対応する。「イ」ガ」イガは筍を食べた時など。

- ノドガ 「カ」ラカラ シテ 「ヒ」ガ」ライ。(老)

(喉がからからと渴く。)[注]「ヒ」ガ」ライは、喉が渴く状態をいった形容詞。

- (筍を食べて)「エ」グイ 「ナ」ー。「イ」ガ」イガ スル  
「ナ」ー。(初老)

(あくが強くて喉が渴くなあ。いがいがするねえ。)

〔項目に関するコメント〕

カラカラには、頭高型と、低起式無下降型（但し、京都・大阪の場合よりは早上がり）のタイプがある。「ゼリゼリ、「ヒーヒーともに古老層のオノマトベと思われる。

#### IV 胴体の感覚

4-1 肩 「コリコリ

【説明】

共通語形と同じ。

4-2 胸 ド「キドキ、「ドッキン「ドッキン、「キボキボ、  
キュ「ーット、「ムカムカ

【説明】

「キボキボは、共通語「ときどき」に対応する形式。

○ 「ムネガ 「シバッテ キタ。「キボキボ 「スル。  
（老） （胸が締めつけられる。ときどきする。）

○ キュ「ーット 「シバッテ キタ。（老）  
（きゅっと【胸が】締めつけられる。）

○ 「ココロ ワリ 「ヨー。「ムナサワギ 「シテ 「ム  
カムカ 「スル。（老）

（気持ちが悪いよ。胸が気持ち悪くて、むかむかする。）

4-3 腹

（空腹） 「グルグル

【説明】

「グルグルは、共通語「ぐうぐう」に対応する形式。

○ （腹が）キュ「ーワ 「グルグル 「ナッテル ン「ヤ。  
（老） （今日は、ぐうぐう【腹が】鳴ってるんだよ。）

（満腹） タブタ「ブ、ド「ブドブ、パン「パン

【説明】

ド「ブドブはお茶を飲み過ぎた時。

○ （お茶飲み過ぎて）「ハーラ ド「ブドブ 「シテル。（老）  
（腹がたふたふしている。）

○ オナ「カ 「パン「パンヤ。（老）  
（おなか一杯だ。）

（腹下し） 「ゴロゴロ、ゴ「ロンゴロ、「グルグル、「ピッピ

【説明】

いずれも腹の鳴る音。

○ 「アー。「キモチ ワルイ 「ヨー。「ゴロゴロ 「  
スル ンヤ。（老）

(ああ、気持ち悪いよ。[おなか]が]ごろごろするんだよ。)

○ (下痢で) 「ビッピデス。(老)

(お腹がピーピーです。)

#### 4-4 胃

「シクシク(弱)、キ「リ」キリ(強)、ジ「ワ」ット(弱)

【説明】

ほぼ共通語の場合と同じ。話者の説明を掲げる。

○ キ「リ」キリ 「イ」タイ ト「キ」ワ キ「リ」キリ ユーシ

「シクシク」ノ ト「キ」ワ ジ「ワ」ット 「イ」タイ。

(きりきり痛い時は、きりきりと言うし、しくしくの時は、じわつと痛い。)

#### 4-5 尻

「モ」ソモソ、「ム」ズムズ

【説明】

ほぼ共通語の場合と同じ。

〔項目に関するコメント〕

当地で特徴的なオノマトペは、「グ」ルグル(空腹時)、ド「ブ」ドブ(満腹時)等が上げられる。

#### V 手足の感覚

(手) 「ブ」ルブル(ブ「ル」ブルとも)

【説明】

頭高型アクセントの場合よりも中高型アクセントの方が、強意となる。中高型の場合、初拍が低く発音されることにより次の上昇が際立つ。これが強調につながると考えられる。

(足) 「ガ」クガク

(その他) 「ヌ」ルヌル、ヌ「ル」ット

【説明】

足に触れた時の、その感触をいう。共通語と同じ。

○ 「ヌ」ルヌル シテ 「コレ キモチ ワ」ルイ 「ヨ」ー。

(老)(ぬるぬるして、これ気持ち悪いよ。)

#### VI 関節(骨)の感覚 ブ「チ」ット、ボ「キ

【説明】

いずれも骨の折れる時の音。

○ (骨が)ブ「チ」ット オレ「ソ」ーヤ。(老)

(ほきっと折れそうだ。)

(大阪市立西第二商業高等学校)